

第10分科会 環境教育

研究課題 環境への豊かな感性を育て、確かな実践力を高める環境教育と校長の在り方

研究発表： 人と自然との調和をめざす環境教育の充実

兵庫県 洲本市立加茂小学校 谷 正

趣 旨

平成15年版「環境白書」によれば、学校教育においては、環境を大切にし、より良い環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる人間を育成するといった視点を重視して、従来から児童の発達段階に即して、社会科や理科や家庭科などの教科等および道徳・特別活動・総合的な学習の時間の中で環境に関する学習が行われており、引き続きその推進を図っている。また、各学校では、身近な地域の環境についての学習や豊かな自然環境の中でのさまざまな体験活動を通して、自然の大切さを学ぶなど各種の取り組みが進められていると記載されている。

さて、わたし達の住む淡路島では、1995年1月17日「阪神・淡路大震災」が発生し、人的・物的にも大きな被害を受けた。その後、震災の痛手を乗り越え、淡路花博「ジャパンフローラ2000」の開催を機会に、花と緑と青い海を大切に、ふるさとの風土に学び、世界を知り、「開かれた公園島」づくりを誓って、《淡路公園島憲章》を制定している。

主な取り組み事例は次の通り。全島一斉清掃に参加するなど、家族ぐるみ・地域ぐるみの環境美化運動を進める。

淡路島に自生する植物を大切に。ごみのポイ捨てをしないほか、ごみの分別収集をすすめる。リサイクルに努めるなど、ごみを少なくする。川や海を美しくするため、生活排水対策事業に協力するとともに、台所や洗濯など家庭で工夫し、汚れを出さないようにする。自然とふれあい、健全な身体と強い精神力を養う。淡路島の自然や歴史、文化を学ぶ。「あわじ花トイレ」(無償でトイレを開放)を増やし、清潔な環境を維持する。

さて、《淡路公園島憲章》からも分かるように、自然の宝庫である淡路島では、地域・家庭・学校が一体となって自然環境を保持・保全する取り組みが行われているが、学校によっては地域性や保護者の考え方、子ども達の実態などにより温度差がある。環境についての身近な教材が数多く現存している淡路島について、環境保全の大切さを教育

現場でどのように子ども達に実感させていくかが課題となる。また、子ども達の発達段階に応じた環境教育の指導をすることも大事である。とりわけ、教える側の教師の姿勢によって、子ども達の探究心が損なわれることのないようにしなければならない。

研究の概要

1 地域・学校の実態

兵庫県南部の淡路島の中央部に位置する洲本市。本校は、その洲本市の北西部に位置し、先山(標高448m)南東部一帯の洲本川域に開けた田園地帯である。北には、神戸淡路鳴門自動車道、南には国道28号が東西に走り、国道沿線には三洋電機洲本工場をはじめ、自動車ディーラ・や商店が軒を並べ、交通量が増大している。また、県営住宅・市営住宅もあり、宅地造成による住宅建築も増え、近郊農業地域の代表的な縮図を呈している。学校規模は、児童数244名、13学級である。

2 学校と行政・地域社会との連携

淡路島では、平成元年より7月の第1日曜、11月の第2日曜の2回、島内1市10町の行政・町内会、地域住民、学校等が協力して清掃活動を続けている。

本校では、7月の一斉清掃には早朝8時より全校児童が親子で参加し、居住している各町内会での清掃活動に協力している。各自手渡された軍手、指定のゴミ袋を持って保護者、地域の方と一緒に空缶やゴミ拾い、草引きなどを行っている。各町内会の地区住民総出の催しの一員として参加した児童は、環境への共存・共生への思いを強く感じる機会となっている。

なお、11月の一斉清掃では、1週間前に指定のゴミ袋を全校児童に渡し、通学・下校時に空缶やゴミを拾って、学校へ持参し回収する方法をとっている。

3 市内小中学校のクリーン作戦

洲本市内には、小学校が8校、中学校が5校の計13

校がある。校区内に海水浴場のある小中学校では、「海開き」を前に、全校児童生徒・教職員、保護者、地域の方々と共に砂浜を中心に海岸の清掃活動をしている。

また、市内由良地区では、紀淡海峡沖の成ヶ島と呼ばれる無人島があり、「成ヶ島クリーン作戦」を例年実施している。由良地区の住民で組織した『成ヶ島を美しくする会』が中心となって年に数回、大阪湾内のゴミが漂着する島の海岸の清掃活動をしている。13年前に由良中学校が、2年前から由良小学校が「成ヶ島クリーン作戦」に参加している。

ハマボウの生息地である成ヶ島には、貴重な海洋生物が数多く生息しており、兵庫県や環境庁も注目している島である。平成16・17年、由良中学校は、「海の環境教育実践推進校」として県指定事業を受けている。なお、本年7月19日には、由良中学校で「成ヶ島環境シンポジウム」が開催されることになっている。

由良地区は、1小学校1中学校の限られた狭い漁業中心の地域である。海の汚れが生活に直結することから、地域住民の環境への関心が高い。子ども達に正しい環境教育を推進することが、学校・地域・家庭の連携を深めることになる。

4 淡路の名水探訪《社会科・理科・総合的な学習等》

昨年8月20日、洲本市小学校社会科臨地研修会を実施した。市内5校13名の小学校の先生の参加があった。目的は、淡路島内には『名水』と呼ばれる湧水の出る所が数多くあるが、意外と知られていないのが現状である。洲本市内の4ヶ所をはじめ、津名郡内にある『名水』数ヶ所を併せて探訪する。講師の波毛康宏先生は、島内『名水』について本を執筆されたり、調査・研究をされており、島外でも著名な方である。淡路島内の『名水』についても、環境汚染等の問題がおこっている。身近な地域での学習を通して小学生に考えさせる材料となれば幸いである。

洲本市小学校社会科担当校長であるのを生かして、先生方に考えてもらう機会とした。

ヘキサダイアグラムによる分析結果

湧水	C	Mg	硬度
船瀬の閼伽水	14	12	87
大師の水	41	7	131
示現水	30	8	109
牛王水	30	7	104
湯谷薬師の清水	17	12	91
御井の清水	23	7	88

・ ・ は、津名郡内の湧水

硬度90前後が「六甲の水」

震災によって湧水が枯渇した『名水』が数ヶ所ある。

また、『名水』の近くまで開発により住宅が迫っていたり、周辺に車や電化製品等の大型ゴミが投棄されている所もあった。

本校の4年生児童41名は、校区内の湧水「牛王水」を探訪し、周辺部にはまだ多くの自然が数多く残っていることを実感し、また持参したペットボトルに湧水を入れ、後日「水道水」・市販の「六甲の水」・「牛王水」の飲み比べをした。「六甲の水」と「牛王水」については、判別がしにくかったが、おいしく貴重な湧水であることが理解できたと思われる。

写真

5 学校田を利用した米づくり体験

本校と幼稚園の職員駐車場奥に2アールの学校田がある。平成6年・7年の2年間、文部省（現文科省）指定生活科教育研究推進校となり、米づくりを教材として取り組むことになったが、適当な休耕田の紹介を当時の連合町内会長やPTA会長にお願いをし、現在の学校田（かもっ子農園）を借用・活用することが出来るようになった。以後例年、生活科・社会科・理科・特別活動・総合的な時間等で下記の「米づくり」体験を実施している。

(1) 田植え（2年）《生活科》

写真

地域在住で現町内会長に依頼して、小型トラクターで「田おこし」をし、田主の了解を得て「水入れ」、町内会長と教職員とで「代かき」をする。そして、いよいよ2年生児童による「田植え」である。本校の周辺は田に囲

まれているが、田植えをした体験のある児童はほとんどいないのが現状である。「キャーツ、キャーツ」と言いながら田に入る子ども達。植える苗は、校区内の老人会の方が自分の田の苗の一部を学校用にと例年栽培してくれている分である。等間隔に印のついたロープを使って、手植えを行う。

(2) 稲刈り・雑穀(2・5年)《生活科・社会科》

10月になると、稲刈りを行う。5年生が2年生の手本となって、1株ずつ子ども達の手で刈っていく。ほとんどの子ども達が使ったことのない鎌を持ち、怪我をすることなく意外と上手にやっている。次に刈り取った稲を木で作った「ナル」にかけてしばらく乾燥させる。脱穀は、田植えと同様に町内会長の持ち込んだ機械を使い、子ども達が稲運びをして行う。

写真

(3) ポン菓子(2年)《生活科》

収穫・脱穀、精米をした米を使って、業者に依頼し最近見かけなくなったポン菓子の実演および試食を行う。

「田植え 稲刈り・脱穀 ポン菓子」懐かしい手作業による米づくり体験を通して、無農薬(有機肥料)・無添加(砂糖)等、自然のままが良いことを実感させる。

写真

(4) しめ縄づくり(5・6年)《総合的な時間》

12月になれば、稲刈り・脱穀後のわらを使って老人会の方を講師に、お正月用のしめ縄づくりに挑戦である。「ウラジロ」と呼ばれる植物は、近くの桑間山で採れる。

多少の上手・下手はあるけれど、子ども達の腕前は年々向上している。

6 玉葱づくり(2・3・4年)《生活科・社会科・総合》

米づくりの終わった学校田(かもっ子農園)を遊ばせておくのはもったいないと、秋から春にかけて淡路島名産の「玉葱づくり」を2年前から実施している。稲刈りの終わった田を町内会長のトラクターで鋤いてもらい、畝をつくり玉葱の苗を植える(2年生)。5月下旬から6月初旬に玉葱を収穫する(4月に進級した3年生)。現在は使用していない屋根付きの自転車置き場の鉄柱部分に、数個ずつに束ねた玉葱を引っ掛け乾燥・保存させる。

3年生・4年生は、それぞれ総合的な学習の時間に、おいしい新玉葱を使ったカレーライスを作り、試食する。無農薬で安全な自分達で栽培・収穫した玉葱を食べ、淡路島の名産であることに誇りを持たせ、安全な食べ物について考えさせる。

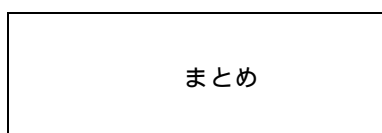
写真

7 しいたけ栽培(4年)《理科・総合的な学習》

昨年からはじめた新しい体験学習である。近隣の業者をゲストティチャーとして招き、栽培方法についての話と実演・指導をしていただいた。菌の植え付け、保存・保管等、子ども達は毎日観察を続けた。予想以上の収穫があり、自然を生かした先人の栽培技術に子ども達は感動と興奮を覚えた。

写真

写真



1 実践の成果と課題

(1) 成果

- 教育課程への位置づけ
- ・総合的な学習の時間での位置づけ
 - ・環境についての身近な地域の教材を中心に構成
教師の意識改革と研究への真摯な態度
 - ・単元構成への工夫、効果的な指導方法の工夫
 - ・興味関心への喚起
 - ・情報活用能力の推進および向上
 - 環境教育に関わる連携
 - ・身近な地域の人材をフルに活用
 - ・県および市町、町内会・PTAとの連携
児童の関心と主体的な学習
 - ・身近な地域の教材を中心に捉えることによって、
興味関心が高まり、意欲的に学習に参加
 - ・地域の自然環境に対する意識の変化
 - ・「生きる力」が育まれる
 - ・環境を自分達の問題として意識するようになる

(2) 今後の課題

- 「環境教育」を考慮した教育課程の編成
- ・社会科・理科・生活科等各教科、総合的な学習の
時間、道徳、特別活動などとの相互連携の明確化
 - 学校週5日制との関連
 - ・環境に自主的に関わり、実践していく意欲・態度
の育成
 - ・県および市町、町内会・PTAや関係機関との連
携を深めると共に、役割分担の再検討
 - 環境教育の充実
 - ・身近な地域の教材と児童の発達段階に応じた教材
の開発
 - ・ゲストティチャーとしての地域の人材確保・発掘
並びに積極的な活用及び方法
条件整備

ア 「総合的な学習の時間」に関わる諸課題

- ・校外学習時における安全確保
- ・関係機関との連携
- ・予算上の措置

イ 主体的な学習への諸課題

- ・図書コーナーの整備、蔵書の充実
- ・情報機器の整備
- ・専門家や関係機関の情報提供及び協力体制づく
り

ウ 児童が主体的に地域活動に参加しやすくする等 の条件整備

2 校長の果たすべき役割

(1) 教職員の意識改革

- ・校内研修会の活性化
- ・各方面で開催されている研究会等への参加奨励
- ・学校評価の活用

(2) 教育課程への位置づけ

- ・年度当初の経営方針への明確な位置づけ
- ・環境教育の積極的な提案
- ・校内研修の課題としての位置づけ

(3) 地域・家庭、関係機関との連携、役割分担等の整備

- ・「学校だより」等、学校からの積極的な情報の発信
- ・地域の人材確保・活用、連携に向けた条件整備
- ・地域における児童の実践の場の拡大

(4) 施設・設備の充実及び必要な予算の捻出

- ・環境教育に関わる施設・設備の見直し及び整備
- ・教育委員会への予算要望、予算の有効な活用